

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子東葛西保育園
施設所在地	東京都東葛西7-28-15 COCOWA葛西1階
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

室内運動遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園庭やホールのない園舎、運動の活動に制限がある中、元気な子どもたち。限られたスペースで子どもたちが身体を動かせる環境を整え、身体を動かすことの楽しさを感じられたらと思い、『室内運動遊び』をテーマ設定する。

また、園庭やホールが無い園舎だからこそ、保育室内で使える道具（鉄棒、マット、巧技台等）をさらに増やしていき、日時天候に関わらず常に室内運動遊びが出来るように発展させていくため。

2. 活動スケジュール

6/24 運動遊びについて（講師 西園先生） スタッフ研修

体育指導

①7/1 ②7/22 ③8/5 ④8/26 ⑤9/9

⑥9/30 ⑦10/14 ⑧10/28 ⑨11/11 ⑩11/25

7. 8月 運動の基礎遊び①

運動を楽しみと感じる。やりたいと思う気持ちを育てる。

- ・毎日10分～15分間の運動タイムを設け、運動能力の向上、できた喜びを感じていくようにする。
- 運動の動きが書かれたカード（ラミネートしたもの）を使用し基礎の動きを行った。

9月 運動の基礎遊び②

- ・子どもたち自身で動きの分析を行う
- 動画を撮り、動きの分析、スクリーンで流して、みんなで分析を行う。
- 記録をとり、目標や成長をわかりやすくする。
- 親子触れ合いDAY 親子で体を動かす行事を実施。

10月 環境づくり

- ・挑戦しやすい環境設定
- 1日1回挑戦できる環境を作る。
- 立ち幅跳びやラダーを準備して、いつでもできるようにする。
- 保護者が登降園時にみられるような環境設定にする。

11月 環境づくり

- ・やりたいこと、さらなる向上に向けた活動

12月 まとめ・すくわく発表会

- ・1年間の活動まとめ
- 12月23日すくわく活動についてのすくわく発表会を園内で実施。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

ラダー・エアマット・マット・跳び箱・ロイター板・鉄棒・ジャンプカウンター・タイマー・立ち幅跳び・リング跳びを購入して使用し、運動遊びのバリエーションを増やすことができた。また、運動遊びの基礎から、マットや跳び箱、鉄棒を使った運動遊びに発展させることができた。スピーカーで音楽を流し、体操の時間だとわかるようにした。

携帯で撮った動画をプロジェクターで流し、子ども達の探求につなげた。

ラミネートおよびラミネートフィルム、リング：基礎運動するための紙芝居を作る為に使用した。

ボディアシスト西園先生の講師料

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1. 運動遊びについてスタッフ研修：体育講師の西園先生から、子どもが体を動かす時の重要なポイントを学び、保育者の視点や方向性を統一した。（6月）
2. 運動の基礎遊び①：毎日10分間の運動時間を設け、紙芝居を使い基礎となる動きを行う。（7・8月）
 - ・マットやリング跳び、ラダーを使用しジャンプや動物歩き、ケンケンを行う。
3. 運動の基礎遊び②：基礎となる動きに慣れると「次はこの動きだ」と自分達で紙芝居をめくり、友達と協力しながら行う。「今度はジャンプしたり、跳び箱もしたい」という声があがるようになる。（8・9月）
 - ・親子触れ合いDAY（親子参加型行事）にて運動遊びを発表する。（9月27日）
4. 環境づくり：3歳児はマットで前回り、4・5歳児は跳び箱に挑戦することを子どもと決め活動の中に取り入れプロジェクターなどを使い、体の動かし方など探求する。（10・11月）
5. まとめ・すくわく発表会
「みんなにも見せたい」という声から、すくわく活動に関するミニ発表会の時間を作り、それぞれが今まで行ってきた中で見せたいものを発表した。（12月23日）

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

最初は言われながらに体を動かしていた子どもたち。保育者の声掛けも「ちゃんと並んで」や「しっかり話を聞いて」と否定的な声掛けが多々あった。研修を受け”ほめる”ことを意識した声掛けを毎日の運動時間に行うと、子どもたちにも意欲が見られるようになり、「もっとやりたい」という声が多くあがるようになった。また、保育者にも余裕が出来、お互いに楽しい雰囲気の中で運動が出来るようになった。

運動を行って行くうちに、自分で運動カードをめくり体を動かすことが出来るようになった。親子ふれあいDAY（親子参加型行事）で保護者に見てもらうことで自信に繋がり「違うことにも挑戦してみたい」と話をするようになった。

子ども会議の時間を設けると「跳び箱をしてみたい」「マット運動をやりたい」と子ども同士で話し合う姿が見られた。それぞれが挑戦していく中で、プロジェクターを使い動きの探求を行うことで、友達の動きを見て「すごい」「今のかっこよかった」等自分の動きだけでなく友達にも興味を持つことが出来るようになった。

年長組の子ども会議内にて「みんなに見てもらいたい」という話が出たため、3クラス合同のすくわく発表会を開催した。みんなの前で発表することで人の前に立つことが苦手だった子どもも自信がより付き、「次は〇〇くんみたいに高いのにも挑戦してみたいな」「違う運動もいいな」という声があがるようになり、さらなる挑戦に繋がるようになった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

取り組む前は室内運動遊びのバリエーションが少ないことから、飽きてしまったり、走り回ってしまう子どもも多く、注意する声掛けが多くなっていました。

体育講師から運動を好きになるには”ほめる”ことが一番大切ということを学ぶことで、保育者の声掛けも変わり楽しい雰囲気の中で体を動かし、褒めあったりハイタッチをしたりする姿が増えた。体育の時間だけでなく普段の保育でも注意することよりも褒めることが多くなり、さらに信頼関係が強くなった。

基礎から始めることで、誰でも簡単に始められることを知り、「楽しい」と思えることがわかった。また基礎から始めたことでその後の運動遊びもスムーズに出来、基礎の大切さを知ることが出来た。体育教室を通して、「もう一回やりたい」「次はもっと（跳び箱の）段数増やしてみたい」等前向きな意欲が見られるようになった。”ほめる”ことを意識すると子ども達の言動にも変化があり、自分のことだけでなく友達のことを考えたり、褒めたり、ハイタッチしたりする姿が多くなりコミュニケーションがより活発になった。子どもたちの意欲に繋がっていくことが分かり、今後の保育活動にもさらに活かしていけるようにする。また、同じことを行い続けるのではなく、ステップアップができたり、友達や他のクラスに見てもらえる機会があることでさらに意欲に繋がることがわかった。

親子触れ合いDAY（親子参加型行事）を通して子どもも保護者に運動している姿を見てもらい、喜ぶ姿が見られた。保護者からもドキュメンテーションを見たり子どもとの会話から、「体育楽しそうだね」「体育教室楽しみにしているんです」などと親子の会話が増えたり、保育者にも声をかけてもらえることが増え、会話が多くなった。

今後もステップアップが出来る保育環境や”ほめる”ことを意識し、よりよい保育が出来るようにしていきたい。